

研究テーマ	[ I 素材（材料や用具，場所など）と出会い，かかわること ] 子どもたちの自然な発想を引き出す指導計画の工夫 —小学校2年生型押し版画の学習を通して—
-------	--

土浦市立下高津小学校 教諭 横山 明実

## 1 研究テーマについて

### (1) 主題設定の理由

小学校低学年を多く担任していて感じるものの一つに、想像力の豊かな子とそうでない子との差が激しいことがある。柔軟に与えられたテーマに応じて発想を広げスムーズに取りかかれる子は良いが、何も思いつかず、どうしたらいいか分からず、何時間でも固まったままの子もいる。一度そういう状態になったら、いくら教師側であれこれアドバイスをしてなかなか乗ってこない。好きで固まる子はいない。友達のようにいろいろ考えつくことができない自分に落ち込んでいるのである。「自分は大めだ」と思う前に興味をもって活動に入れることが大切だと考え、この主題を設定した。

### (2) 研究のねらい

低学年の子どもたちは、一度「そうか!」と思いつき、取りかかると速い。あっという間に仕上げまで行ってしまう。制作途中でうまくいかないからどうしようと立ち止まって悩む子は少ない。それだけに導入が大切と考える。そこで、導入における素材との出会いを大切に考え、出会い方について工夫する。

### (3) 仮説

導入の段階で、素材と楽しく出会い、素材と十分に遊ぶ活動を取り入れれば、作品に仕上げなければいけないという構えなしにスムーズに活動に入れるであろう。

## 2 実践例

### (1) 題材名 「うつしてみよう なにが見えた？」

### (2) 目標

- 版を使った表現に興味をもち、いろいろな素材を使って絵を構成することを楽しむことができる。 (関心・意欲・態度)
- 野菜や木の葉を版として写した形から、自由な発想や想像をふくらませることができる。 (発想や構想の能力)
- 版を使った表現を試しながら、繰り返しや重なりなどの工夫を表現に生かすことができる。 (創造的な技能)
- 自分や友達の表現から、発想の楽しさや版の良さに気付くことができる。 (鑑賞の能力)

### (3) 題材について

本単元は、学習指導要領第1・2学年の内容A「(1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思いついてつくること。」の内容のものである。2学期の生活科の授業で年賀状を作った。昨年の2年生はサツマイモを使った芋版が中心だったが、土浦市の特産品である「蓮根」も用意したところ、一生懸命彫った芋版よりもずっと美しい模様ができ、子どもたちと共にその自然の美しさに見とれた。そこで、今年是最初から蓮根だけを利用したところ、2年生の子どもたちなりに配置や色を考えて押していた。自然にできる模様の面白さ、美しさを利用して図工の作品ができないかと考え、教科書に展開例として載せられている型紙版画ではなく、自然物を利用する題材とした。

本校の学区は主に住宅地と商店であるが、まだ自然も残っており、一部の子供たちはザリガニ釣りをしにたんぼに出かけるなどの体験もある。しかし大部分は、近くにあるイオンなどの大型ショッピングセンターや家の近くの公園が主な遊び場であり、自然物と十分にかかわり遊ぶ体験は少ない。それでも子供たちに型押し遊びの体験を聞くと、幼稚園や保育園でやったことがある子もいて、「キュウリも模様がでるよ」とか「オクラが面白い」「木の葉っぱも写せたよ」などの意見が出た。できるだけ子供たちの意見を尊重し、手に入る範囲で面白い模様が出る自然物を利用したい。

#### ☆ テーマに迫るための手だて

##### ① 版に写してみたい自然物は、興味に応じて自分で用意させる。

- ・ 試し遊びをする。

教師が用意した野菜や木の葉に、たんぼ、筆で絵の具をつけ型押し遊びをする。どのような表現ができるか大体分かったところで自分で用意して使ってみたいものがないかどうか投げかける。



- ・ 版に使いたい自然物探しをする。

まず、校庭の木の葉で利用できるものを探しに行く。自分で探しに行くことにより、日頃何気なく目にしている草木が、面白い模様を作り出す興味ある材料として児童の目に新鮮に映り、意欲的に活動に入れるようである。その他に、自分で試してみたい野菜や木の葉を家庭の協力を得て準備する。できるだけ、自分たちの住む土浦市の特産物である蓮根を多く使わせたい。ただし、協力を期待するのが難しい家庭も多いので、試し遊びの時に用意した材料は、ある程度教師の方でも準備しておく。

##### ② 自然の形の美しさをうまく利用するための手だて

木の葉は絵の具がつきやすいように、軽く煮て持ってくるように話す。「木の葉」と「野菜」に限定した理由は、水分が少なく版に適していること、家庭で用意できる身近なものであること、自由にしてしまうと作品にまとまりがな

くなる可能性があるからである。

③ 導入の段階で、型押し遊びの時間を十分に確保する。

自分で版を準備した後、生活班ごとに四つ切りの版画用紙を2枚用意し、思う存分遊ばせる。その際、各班を回って「○○みたいだね」「これ何に見える？」などの声をかけ、写した形から想像を広げる手助けとする。

④ あらかじめ作っておいた版を切り貼りして構成しても良いことにする。

1つ写すことに失敗してしまったばかりに、せっかくの意欲がしぼんでしまうのはもったいない。何度も写しているうちに偶然できた形を使いたいと思う場合もあると思うため、別の紙に写したものを切り貼りしても良いとする。もちろん直接本番の紙に写したい児童もいると思われるので自由にさせる。

⑤ 場の工夫

個人の机の上での活動では発想が広がりにくいいため、活動の場を広く設定する。赤・青・緑の3つの色を用意するため、色ごとに版にインクをつける場を作り、教室中央の床にビニールシートを敷き、シートの上でのびのびと活動させたい。

⑥ 鑑賞の工夫

- 作品の説明を詳しく掲示する。

子どもたちの頭の中には表現したい世界があり、考えながら表現するが、見る側にその思いが説明無しで伝わるようにするのは難しい。そこで、名札と並べて「作品の説明」を詳しく書き、掲示することにした。

- 発表形式の鑑賞会

作品の説明をもとに作品を見せながら一人一人発表することにより、表現力の育成を目指したい。

(4) 指導計画(8時間扱い)

次(時間)	学習活動	評価基準	観点	評価方法
1(3)	1	・教師の用意した野菜や木の葉を使って試し遊びをする。	関	観察
	2	・版として使えるような野菜や植物について話し合う。	発	発表
	3	・校庭に、版になる木の葉を探しに行く。	関	観察



② 自然のもつ形の美しさ

〔れんこん〕

〔ピーマン〕

〔オクラ〕

〔キャベツ〕



〔キュウリ〕

〔タマネギ〕

〔木の葉〕

〔椎茸〕



③ 型押し遊びの時間の確保

準備、後片づけを入れて2時間、実際に活動した時間は約50分であったが、四つ切りの版画用紙を生活班ごとに2枚ずつ渡し、十分に満足ができるまで型押し遊びを満喫した。色は、赤・青・緑の三色を用意した。



④ 切り貼りの自由

個人の作品制作では、1人2枚の八つ切り版画用紙を用意し、直接押しでも、もう1枚に押ししたものを切り貼りしても良いことにした。実際には、インクが乾くまで切り貼りができないこともあり、前時に十分試し遊びをしていたため、大部分の児童がためらわずに直接押しして作品にしていた。

⑤ 場の工夫

試し遊びの段階では、教室中央にビニールシートを敷き、床で活動した。しかし、インクを付けに行くなど出入りが多くなるので、個人の作品作りでは机の上に新聞紙を敷いて行った。ただ、お互いに用意した野菜を貸し借りしたりお互いの作品を鑑賞し合うことも大切と考え、グループの形態で活動させた。

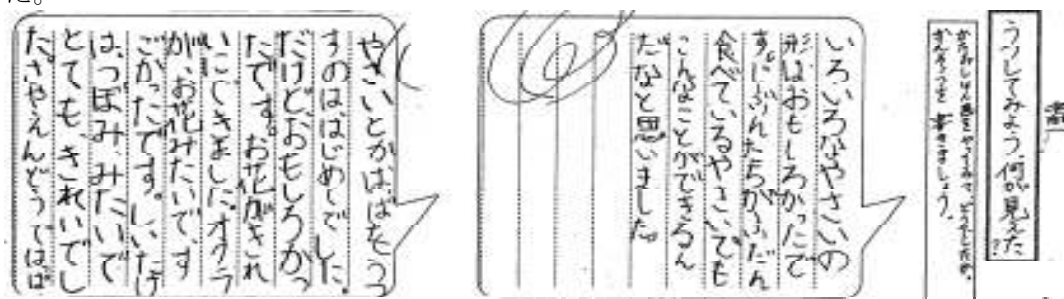
⑥ 発表を恥ずかしがる子もいると予想していたが、作品に対する思い入れが強かつ

たせいか、どの子も詳しく自分の表現したかったことをアピールできた。

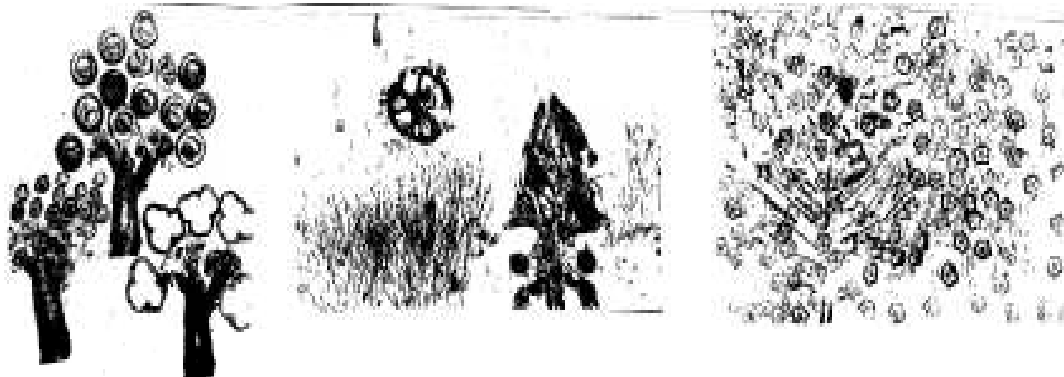
### 3 成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 自分で材料を用意したため活動が止まる児童はいなかった。どの児童も大変意欲的に活動に取り組めた。普段忘れ物だらけでめったに準備物を持ってこない児童も、この学習のために忘れずに準備できたことが驚きだった。
- ・ 自然のものを版にして写した結果できた模様的美しさに、児童一人一人が感動していた。結果的に画面全体がまとまらなくても、どの児童も大変満足した表情だった。



- ・ クレヨンなどの描材を使わずに版だけで表現するという体験により、子どもたちの想像力・表現力の幅が広がった。普段の絵の制作では気付かなかった一人一人の想像力の豊かさを、教師側も発見することができた。



〔木の世界〕

〔海の世界〕

〔花の世界〕

#### 〔課題〕

- ・ 版の材料を用意するためには、保護者の協力が必要になる。準備できない児童のために教師側で用意したり校庭でさがしたり貸し借りをしても良いことにしたが、計画的に役に立ちそうな材料を生活科で栽培するなどの方法もある。しかし栽培の難しさや収穫時期のずれなどを考えると難しいと思った。
- ・ 1つ1つのできた模様は美しくても、作品としてのまとまりに欠け、説明なしでは何を表現したのか分からない作品も多い。「○○に見えるように押しみよう」などの練習をしてから個人の作品に取りかかることも考えたが、材料が生鮮品であるので何度も準備を依頼しづらいこと、偶然の面白さがなくなるのではないかとという心配があった。作品の完成度をどの程度求めるかが悩むところである。